

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 19人 |
| ② 算数 | 19人 |

5 留意事項

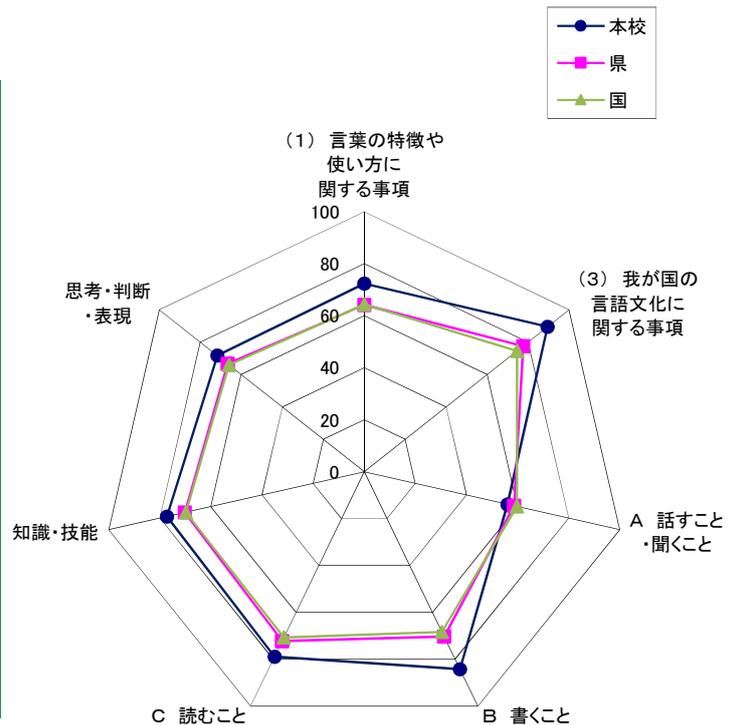
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	72.4	64.2	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	84.2	86.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	89.5	77.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	56.1	58.6	59.8
	B 書くこと	84.2	70.3	68.4
	C 読むこと	78.9	72.2	70.7
観点	知識・技能	77.2	70.2	69.8
	思考・判断・表現	71.7	66.6	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

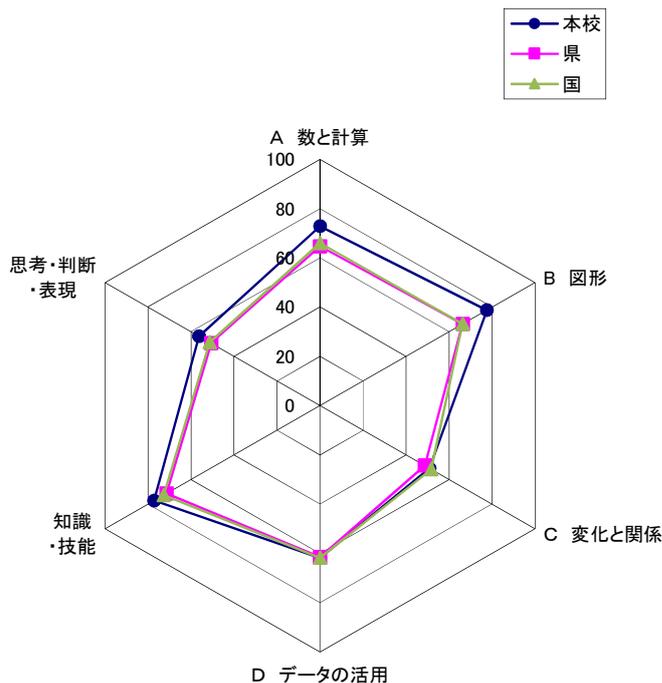
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、72.4%で県平均を上回った。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を書く設問において、県平均を非常に大きく上回った。 ●文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかをみる設問において、県の平均を非常に大きく下回った。	・複数の主語と述語が存在する長い文に触れる機会を設けるために、読書活動の推進と、時間の確保をする。 ・基礎的な事項については、朝の学習や宿題などを通して十分定着を図っていく。また、該当学年以前の既習事項についても復習する機会を設けるようにする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、84.2%で県平均をやや下回った。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問において、県の平均をやや下回った。	・他教科領域との関連付けを図り、いろいろな情報の活用方法を取り入れて表現したり、読み取ったりする活動をしていく。 ・スピーチをする際や、文章を書くための構成を考える際に、構成メモの活用を推進するとともに、ウェビングマップやその他の資料も活用した活動も経験させ、様々な手法に触れる機会を設けていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、89.5%で県平均を大きく上回った。 ○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる設問において、県の平均を大きく上回った。	・日々の読書活動や、読書記録を付ける習慣が生かされた結果だと考えられる。今後も図書館司書と連携を図り、更なる読書活動の推進を図っていく。 ・日常的な音読活動や、言語事項の取り扱いを適宜行い、児童の言語感覚を養っていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は、56.1%で県平均をやや下回った。 ○資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる設問において、県の平均を大きく上回った。 ●目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる設問において、県平均を大きく下回った。	・国語はもとより、他教科・領域の学習活動において、複数の伝えたいことの中から、話すことを限定したり優先順位を付けたりしながら、効果的に伝えるための活動を設定していく。 ・ICTを活用したプレゼンテーション資料を授業や各種活動で活用し、多様な情報に触れて取捨選択しながら話したり、聞いたりする活動を多く取り入れていく。
B 書くこと	平均正答率は、70.3%で県平均を大きく上回った。 ○目的や意図に応じて、事実と感想や意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問において、県の平均を非常に大きく上回った。	・各教科の学習で、自分の考えをノートにまとめたり、まとめや振り返りを言語化する活動を日常的に行っているが、今後も継続して指導していく。 ・書いたことを発表したり、見せ合ったりする活動をより多く取り入れ、他者意識をもって表現することを意識させていく。
C 読むこと	平均正答率は、72.2%で県平均を上回った。 ○すべての設問において県平均を上回った。登場人物の関係や心情を理解する設問や、人物像を想像したり表現の効果を考えたりする設問において、県平均を上回った。	・今後も読書活動を奨励するとともに、読む本のジャンルを広げていくように働きかけ、登場人物の心情を読み取ったり情景描写を味わったりする機会を設けることで、叙述を基に理解を深めていけるよう支援していく。

宇都宮市立城山西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	県	国
領域	A 数と計算	72.8	64.7	66.0
	B 図形	77.6	66.3	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	50.9	48.7	51.7
	D データの活用	61.8	61.5	61.8
観点	知識・技能	77.2	71.4	72.8
	思考・判断・表現	56.4	50.7	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>平均正答率は、72.8%で県平均を上回った。</p> <p>○除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる設問において、県平均を大きく上回った。</p> <p>●計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる設問において、県平均をやや上回った。</p>	<p>・既習の除法の計算が定着しており、小数の除法の計算を生かすことができていた。今後も基礎となる計算練習に取り組み、より定着を図れるようにする。</p> <p>・立式において、まずは思考過程を絵や図で表し、それを言葉や式で説明できるよう繰り返し練習していく。その際、「かける数」「かけられる数」などの用語の意味もしっかり押さえていく。</p>
B 図形	<p>平均正答率は、77.6%で県平均を大きく上回った。</p> <p>○直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる設問において、県平均を上回った。</p> <p>○球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる設問において、県平均を非常に大きく上回った。</p> <p>●直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる設問において、県平均を上回った。</p>	<p>・図形の学習においては、具体物を扱いながら学習することで、図形を構成する要素を視覚的や感覚的に学ぶことができるようにする。</p> <p>・円柱の展開図についても、実際に自分で組み立てて直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解を深められるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>平均正答率は、50.9%で県平均をやや上回った。</p> <p>○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる設問において、県平均と同程度だった。</p> <p>●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問において、県平均をやや上回った。</p>	<p>・速さ、時間、道のりの関係性について、今一度丁寧に抑えておく必要がある。その上で、状況説明を言葉や数を用いて記述する練習を繰り返し行い、記述の仕方を身に付けさせていく。</p>
D データの活用	<p>平均正答率は、61.8%で県平均と同程度だった。</p> <p>○円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる設問において、県平均を上回った。</p> <p>●折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる設問において、県平均を下回った。</p>	<p>・さまざまなパターンの表やグラフの読み方について補充プリント等を活用して、さらに習熟を図っていく。</p> <p>・記述を要する問題については、何を問われているのかを押さえ、それに対して条件を満たしながらどう答えなければよいかを繰り返し練習を行い、記述の仕方を身に付けさせていく。</p>

宇都宮市立城山西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「先生は、あなたのように認めてくれていると思いますか」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」の設問において、児童の肯定割合が94.7%だった。少人数であることを生かし、一人一人の特性を把握しながら指導したり、少人数指導教員やICT機器を活用した学びの個別最適化を図ったりしていることが有効だと考えられる。

○「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」の設問において、肯定割合が県平均を非常に大きく上回った。

○「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の設問において、肯定割合が県平均を大きく上回った。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いのよさを生かして解決方法を決めていますか」の設問において、肯定割合が100%であり、県平均を大きく上回った。子供たちが話し合って実践した行事等を成功させることで、さらなる自信につなげていきたい。

○「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」の設問において、肯定割合が89.5%で、県平均をやや上回った。学習したこと以外にも学校での活動から日々の生活に関連させることがうかがえる。

●「自分には、よいところがあると思いますか」の設問において、肯定割合が79%で、県平均を下回った。日々の学校生活の中で一人一人のよさを認め励ますとともに、その都度、具体的な言葉で直接児童へ伝えていく必要がある。

●「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問において、肯定割合が県平均を大きく下回った。学習指導面での面倒見のよさが、児童指導面でも生かされるよう、「小さな学校だからこそできること」を学級担任をはじめ、教職員が連携しながら推進していく必要がある。

●「友達関係に満足していますか」の設問において、肯定割合が県平均を下回った。入学以来ほぼ同じメンバーで過ごしてきたことによる閉塞感が感じられる結果であった。しかし、6年間共に過ごしたからこそ深められた絆もあると考えられる。残りわずかな小学校生活をより充実したものにできるよう、指導にあたっていく。

●「タブレットなどのICT機器を活用して自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」の設問において、肯定割合が57.9%で、県平均を非常に大きく下回った。日々の授業の中でも自分の考えや意見をもつこと、表現することに苦手意識がある児童が見られる。またパソコンスキルにも個人差が大きく、上手な友達と比べてしまい、自信がもてない児童がいることが考えられる。ICT機器の使い方も含めて指導するとともに、児童同士がお互いに教え合うことで効果的な表現方法を学び合えるようにしていく。

宇都宮市立城山西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「聴く」ことの重点的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の考えや分かったこと、疑問に思ったことを他者に伝えたいという思いをもち、積極的に発信しようと思える学習活動の工夫をする。 「聴く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり、反映させたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習意欲が高く、授業に積極的に取り組んでいる。 自分の考えを発表することに対して得意だと感じている児童と苦手意識をもっている児童に分かれている。 学級は発言しやすい雰囲気があり、話し合い活動も積極的に取り入れられている。
振り返り活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 授業者による肯定的なフィードバックの充実を図り、児童の自己効力感を高めていく。 単元末や授業の終末における振り返りに対して教師が適切なフィードバックを行い、児童が自己の学習活動や取り組みの成果を俯瞰的に捉えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 先生は学習のことについてほめたり、熱心に指導したりしてくれると感じている児童が多い。 困難な課題に対して粘り強く取り組むことができる児童が多い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> 学習領域によっては基礎的な事項が十分定着していないと考えられるものがあった。 自分の考えを分かりやすく伝えるために言葉や文章で表現することに課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 「聴く」ことの重点的な指導 中間の振り返りを含めた、振り返り活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「聴く」ことの大切さを理解し、他者の話に進んで耳を傾けるとともに、それを自身の考えと比較したり、反映させたりしていくよう働きかけていく。 授業や単元の途中で「中間の振り返り」を取り入れ、より学習のねらいに到達しやすい環境づくりをする。また、中間の振り返りを通して、児童が自己表現をする機会を増やしていく。